



「岡山ユネスコ協会設立30周年に寄せて」

副会長 藤木 茂彦

1994年3月、岡山ユネスコ協会が「再」結成されました。今年は30周年の記念の年となります。「再」結成とは？経緯を振り返ってみたいと思います。

国連機関であるユネスコは、第二次世界大戦後の1946年に、人類が二度と戦争の惨禍を繰り返さないようにとの願いを込めて、各国政府が加盟する国際連合の専門機関として創設されました。教育科学文化の発展を通じて世界の平和と福祉の実現を進めるための国連機関として設立されました。これにいち早く呼応したのが日本の市民でした。世界で初めて、民間団体としてユネスコ運動に協力する「ユネスコ協力会」が、1947年仙台で生まれました。この協力会は、地域的に民間ユネスコ活動を推進する、世界で最初に組織された団体で、その後日本各地に広がりました。そして1948年、日本ユネスコ協力会が発足、1951年に日本ユネスコ協会連盟が設立されています。このような流れを受けて、岡山ユネスコ協力会が1950年に設立されています。民間でこのようにユネスコ運動が活発に行われた背景としては、日本はこの時点でまだ国連に加盟しておらず、国際社会への復帰が国民の願いであったこともあると思われます。1956年、サンフランシスコ講和条約から5年を経て、ようやく日本は国際連合への加盟を認められました。

1994年の「再」結成当時、私自身は岡山へUターンして数年ということで、いろいろな地元の活動に参加し始めていました。AMDA との出会いもあり、国際貢献トピア岡山の構想にも関わり始めていました。そういった会合などで三宅正勝先生の知己を得、休眠状態にあった岡山ユネスコの復活を目指しているという熱い思いをお聞きました。その中には、私も参加した中国での沙漠緑化活動を行っていた阿川信幸さん、赤松大緑さん、岡崎博之さん、岡山理科大学の奥田節夫先生、若い研究者であった池田満之さんなどがおられました。1995年に阪神淡路大震災が勃発し、AMDA を中心に NGO のネットワークが形成され、岡山ユネスコ協会も主要メンバーとして活動しました。すぐ隣の地域で起こった非常に不幸な大災害でしたが、このあたりからボランティアということが一般的に行われるようになってきたように思います。

1999年に、岡山シンフォニーホールを会場に全国大会を主催し、ユネスコ平和芸術家として今もご活躍の二村英仁さんのヴァイオリンコンサートが、ほぼ満席の中で開催できたことは忘れられません。2001年には、当時岡山ユネスコが推進していた国際姉妹校を基盤に、第8回国際貢献NGOサミットを「こどもサミット」として実施、主にアジアの国々から総勢50人くらいのこどもたちを迎え、それぞれの学校と交流し、またホームステイで家族ぐるみの交流が実現したことも大きな出来事でした。

ユネスコ運動と言っても非常に範囲が広く、何がユネスコなんだろうというのは人によってとらえ方が違うでしょうから、活動を継続していくにはその地域で何か特徴的な活動の柱を持つようになると思います。岡山ではユネスコのESD（持続可能な社会づくりのための教育）にかなりかかわってきています。2000年代初めころからユネスコ本部の担当者と連携し、ESDに関する国際会議（トピアの会主催）にかかわってきました。そういった活動の中で岡山市が最初のRCE（国連大学が進めるESDの拠点地域）に選ばれ、岡山大学にユネスコチャーターが誕生しました。これらの背景には、京山地域で行われていた公民館を中心とした地域の総合連携モデル（京山ESD推進協議会）の活動が世界の注目を集めたことがあります。2005年から始まったDESD（国連ESDの10年）の中でも事例発表などを行い、2014年の岡山市で行われた「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催につながっていきます。

現在、岡山ユネスコの主要な行事である、平和の鐘を鳴らそう、絵で伝えようわたしの町のたからもの絵画展などもESDに関する事業と言っていると思います。もちろん新たな国連目標であるSDGsを全体として進めていくうえでもESDは基本

的な要素であると思いますし、ESDを進める対象分野をよりわかりやすく示してくれているのがSDGsであるとも言えると思います。私たちが目指すものは、より良い社会、より多くの人が幸せに楽しく生きる社会づくりであると思います。岡山ユネスコは今後ともそういった社会づくりのために活動を行っていきと思いますが、その枠組みとしてSDGsの考え方を利用して行けばいいのかなと考えています。



「新入学留学生への生活・就労支援講義」

監事 岡崎 博之

2024年4月に大学・専門学校へ入学した留学生に対して「日本での生活ガイダンス」「日本の法律・就労の在留資格」の講義をしました。

テーマは「留学生の地域での生活」で、今回は「多様性と多文化共生の社会」をサブタイトルとしました。

岡山情報ビジネス学院は8か国・25名の留学生が「国際ITシステム学科」に、吉備国際大学では「経営社会学科」や「アニメーション文化学科」などに5か国・53名が入学し、そのこと自体がダイバーシティ・多文化共生となっています。ネパールの留学生が増加しているのが特徴です。

地域での日本人との交流で、お国自慢（自分の国のユネスコ世界遺産などの観光地、料理、お祭り）と自己紹介ができるようにと話をしました。

今回も、私が一方的に講話するのでなく「パスポートや在留カードを失くしたらどこへ言いますか？」などとみんなに考えてもらう時間をとりました。

また、SNSを使用時のトラブルや犯罪に巻き込まれないこと、日本企業への就職希望者が多くなっていることで日本語能力試験N1合格を取得することなどを強調しました。

「日本の法律・就労の在留資格」では、資格外活動（アルバイト）の週・28時間以内の制限だけでなく、最低賃金が引き上げられているので住民税が課税されている人は未納にならないように気をつけること、就職を希望する会社の仕事内容が学校で専門的に学習した内容と関連性があるかどうか応募する前に確認すること、キャリアアップを図り国家資格取得に挑戦し高度人材として長く日本で働いてもらいたいことなどを講義しました。



岡山情報ビジネス学院・国際ITシステム学科



吉備国際大学・キャリアデザイン講座



「第31回 岡山ユネスコ協会総会開催報告」

事務局 井上 紘貴

2024年5月26日曜日、31回目となる岡山ユネスコ協会の総会を岡山国際交流センターにて実施しました。



総会に先立ち、特別講演として岡山市立岡山後楽館高校・校長の矢吹玲子先生より、「未来の教育を目指して～岡山後楽館高校の取り組み～」と題して、同校における地域に根差した教育・生徒活動について発表がありました。

続いての総会で、前年度の事業報告、決算、今年度の事業計画、予算について発表がありました。

また今年度は役員改選の年でもあり、今回の改選で3名が勇退された一方で新たに6名の方々が理事に就任されました。総会終了後は新理事の歓迎会も兼ねて、近くの居酒屋で懇親会も行いました。

岡山ユネスコ協会は今年で設立30周年を迎えることができましたが、新たな体制で活動もより充実させていきます。ここから新たに理事に就任された6名からのメッセージになります。

<徳山 順子>

副会長を拝命しました徳山です。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」というユネスコ憲章の理念に基づいて、これまで自身がSDGsの目標の達成に向けて取り組んできたキャリア教育を踏まえ、次世代の育成にも力を入れていきます。

歴史ある岡山ユネスコ協会で、世界を学びのキャンパスにして、地球的な視野で考える「多様性への寛容さ」を求めて、皆様と一緒に、心豊かな町づくりに少しでも貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



<上岡 弘明>

本年度から理事の仲間入りをさせていただきました上岡弘明です。小学校教員を定年退職後、私立大学で図画工作科教育に係る非常勤講師をしています。

岡山ユネスコ協会との関わりでは、以前から「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展の審査をさせていただいたり、最終勤務校の岡山市立庄内小学校ではユネスコスクール認定校として6年生がSDGs発表会に参加させていただいたり、大変お世話になっています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<椎名 範子>

行政書士をしています椎名範子と申します。

岡山ユネスコ協会には昨年入会したばかりで、まだ活動を分かっていないことも多いと思いますがよろしくお願いします。

行政書士としては、成年後見が主な仕事となっています。また、入管の申請取次の資格を持って、外国人の支援をしています。行政書士会の中では、企業法務部で、事業承継や企業の申請業務について研修会の企画などを行っています。

最近気になっていることは国際介護問題です。どこの国でも高齢になった親の問題は似たような面があります事に加えて、日本に住む外国出身の方が増えていることでこの問題がこれから増えるのではないかと考えています。岡山ユネスコ協会では留学生の支援、また卒業後に引き続き日本に住む人たちの支援をしたいと考えています。

<溝手 得三郎>

5月からお世話になっています。3月までは学校現場にいました。現場を離れて思うことは、私の今までの経験はほぼ役には立たないことです。時代はものすごいスピードで変化しています。役に立つ経験は一つだけ、ほとんどの岡山市立小中学校に行ったことがあるので迷子になりにくいということくらいです。

何の役にも立ちません最初に謝っていきます。「申し訳ありません。」よろしくお願いします。

<山根 知子>

日本近代文学を専門とし、特に坪田譲治と宮沢賢治を研究しています。岡山市文学賞運営委員を24年務め、故郷岡山を愛し作品に描いた坪田譲治の普及活動を軸に学生や市民との活動を進め、岡山市の「ユネスコ創造都市」文学分野への加盟を推進してきたことが昨年実り、大きな喜びでした。本会でも文学による心の平和への推進を願っています。

<矢吹 玲子>

皆さま、初めまして。今年度、理事として仲間入りさせていただきました。

岡山後楽館は、中高一貫教育校としてユネスコスクールの認定を受け、地域課題探究、社会貢献活動や国際理解教育に重点を置いた学校教育を推進しています。岡山ユネスコ協会の活動を中学生・高校生に繋いでいくことができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

<編集後記>

梅雨明けから猛暑の日々が続いていいる今日この頃ですが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。今回でニュースレターは、第66の発行となりました。会員の皆様方には、ユネスコの活動について理解していただき、今後のご協力をお願いいたします。これからもニュースレターを通して、会員の皆様からのご意見、ご感想をどしどし取り入れていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。連絡はメールでもかまいません。

理事 川口 芳子

